

第9分科会では、子どもたちの安心・安全を確保し、家庭・地域・関係機関と連携し対応する体制づくりや、命を守る防災教育・安全教育を推進するための具体的方策と成果を明らかにしました。

研究発表は、音更町立柳町小学校の伊藤校長より「『生きる力』を育てる防災教育の充実～安心で安全な信頼される学校づくり～」と題して行われました。十勝地区校長会では、3年計画で研究を推進し、研究の視点を「機会創造」と「連携構築」とし、アンケート調査等を検証しながら、校長の防災教育推進の意識や自校の具体的な取組の改善を図ってきました。

誌上交流においては、校長のリーダーシップの発揮、学校安全に関する知識や意識の醸成、関係機関とのつながりなどについて意見や感想が出され、研究を深めることができました。以下、その概要を3点に絞って紹介いたします。

1点目は、「実効性の高い取組」についてです。校長自身の危機管理意識の高まりが、防災教育を充実させる鍵となることが確認されました。

2点目は、「教職員の意識改革」についてです。教職員全員が当事者として危機予知能力を高めていくためのモデル的な実践事例が確認されました。

3点目は、「連携構築」についてです。災害や安全への集中的な取組が、学校内外の連携構築にもつながっていくことが確認されました。

本分科会の成果としては、教職員の資質能力や子どもの防災意識の向上、積極的な情報の発信と共有、立地条件に即した防災・減災の取組などが挙げられました。また、課題としては、防災・安全教育におけるカリキュラム・マネジメントや検証改善サイクルの確立など、次の時代へと安全文化を構築していくことの重要性が挙げられました。

以上、持続可能な社会の実現のため、防災教育・安全教育を推進する意義は極めて大きいことを再確認し、本分科会の報告といたします。